

指定管理者の管理運営に関する評価シート

1 施設

施設名	明石市立文化博物館
施設所管課	市民生活局文化・スポーツ室歴史文化財担当
指定管理者	小学館集英社プロダクション・鹿島建物共同事業体
指定期間	2016年（平成28年）4月1日～2025年（令和7年）3月31日
指定管理料 （年度毎）	2016年度（平成28年度）決算額 139,243千円 2017年度（平成29年度）決算額 141,200千円 2018年度（平成30年度）決算額 138,876千円 2019年度（令和元年度）決算額 141,598千円 2020年度（令和2年度）決算額 138,890千円 2021年度（令和3年度）決算額 127,653千円 2022年度（令和4年度）決算額 134,284千円 2023年度（令和5年度）決算額 137,164千円
管理体制	館長1名（企画事業課責任者兼務）、副館長1名（学芸員兼務）、事務局 長1名（総務課長兼務）、設備管理係長1名、学芸員1名（広報事務兼務）、 事務職員6名（内1名学芸員補兼務） （契約8名、パート3名）2024年4月1日現在

2 指定管理者評価

指定管理期間8年目の2023年度は、文化博物館の設置目的のうち、指定管理者に関わりが深い、①優れた芸術・文化の鑑賞機会の充実、②市民の芸術・文化の交流・発表の場を積極的に提供、の2点について「子どもから高齢者まですべての市民が、歴史・文化・芸術に出会い、発見できる場」「日常生活の中では繋がる可能性のなかった市民が出会い、互いの価値観を知り、相手の価値観を認める場を提供」を重視して事業を行った。

2つの特別展でのアンケート結果より幅広い観覧者層の分布が見られたこと、「あかし若手アートチャレンジ」での在日朝鮮学生美術展の特別招聘、写真コンテストの観覧者増、よりある程度目的達成できたと考える。

また、クリスマスマーケットではこれも目標としていた「「点」を「線」に繋ぎ、「面」として文化の拡がりを創る」ことに成功した。今後、他分野との連携を単なる目的とせず、地域の中の公共施設としての役割を果たしていきたい。

3 所管課評価

・顧客満足度については、特別展の来館者やギャラリー等の貸館利用者へのアンケート結果から、満足度は高いと評価できる。ただし、2023年度は特別展の観覧者数に対するアンケート回答者数が激減していることから、アンケート以外の利用者意見聴取方法を取り入れることも含めて、より多くの利用者の声を運営に反映できるよう努めてもらいたい。

・2022年度に続き、2023年度も特別展での観覧者数目標を達成できていない。指定管理者の自己評価では、歴史的価値や芸術的価値の高いコンテンツを題材としたことが

要因と分析しているが、市民ニーズを的確に把握し、他の関係機関との様々な連携など本市独自の取組を行うことで、当初に定めた観覧者数目標を達成できるよう努めてもらいたい。

・2022年度総合評価で求めた「来館者の裾野を広げる取り組み」については、「あかし若手アートチャレンジ」への在日朝鮮学生の作品の出展、子どもたちも楽しめる「体験プログラム」の開催、来館が少ない高校生の無料開館日の設定、館内ブックスポット設置など、新しい取組が多く見られた。

また、SNSの活用も積極的に行い、講演会の動画をネット配信するなど、幅広い世代に情報発信を行ったことは評価できる。今後も、館が身近に感じられるような事業の継続を期待する。

・地震や火災に対する避難訓練や施設の安全点検について適正に実施するとともに、車いす利用者等に配慮した案内表示の見直しなどにも取り組んでいることは評価できる。引き続き、誰もが安心して利用できる館を目指す取組の継続を期待する。

4 指定管理者選定委員会による外部評価

・各展示会の会期が短いこと、学校観覧が難しい時期に展示会の会期が設定されているため、改善が望ましい。

・条例等のミッションの達成だけでなく、博物館を媒介して人々が交流し、人々の主体的な参加を促すような取組を継続してほしい。

・アートシップあかしの開催など、インクルーシブな博物館運営に取り組んでいるが、実際に博物館を訪れることができない人に向けた内容にも取り組んでほしい。

・ホールに漁船と布団太鼓が長年展示されている。民間企業ならではのノウハウを活かして館内スペースを有効的に使用してほしい。